

階段を上ると広がる大広間は、厳選した銘木をぜいたくに使った歴史と格式を感じる造り



旧奥州街道沿いに建つ嶋貫本家



当時としてはモダンな洋間(2階)は、趣向を凝らした造りと調度品があるじのこだわりを感じさせます



細部にもこだわったレトロな照明



家族の健康を思い薬医門に載せた「桃」。桃は中国の「西王母」(女神)が持つ不老長寿の実

嶋貫本家は、上杉藩の家臣として福島に移り住んだと伝えられています。先祖は、江戸時代奥州街道の宿場町としてにぎわった瀬上で金融業を営んでいました。商家造りの母屋(明治32年起工・同40年完成)と、お客様をもてなす部屋として建て増したという数寄屋造りの離れ(大正2年増築)は、どちらも総二階建てで秋田杉や黒柿などの銘木が使われています。40帖の大広間、格式高い格天井、美しい箴欄間、しつこいのレリーフで仕上げた洋間の天井飾りなど、高い技術とセンスに脱帽です。慶弔の象徴「松竹梅」や不老長寿の実「桃」、火伏祈念の「猪の目(懸魚)」など、家族を思うあるじと職人の粋な遊び心を伺い知れる箇所が随所にちりばめられています。ぜひご自分の目で見つけてください。



福島市瀬上町字本町90-2
【完全予約制】
☎090-2273-5001(受付時間 午前10時~午後4時)
見学料/建物維持協力金 1人500円

京都の名所鴨川と東山に見立てた雅な風情に酔う

旧日本銀行福島支店長役宅
おぐら 御倉邸



福島市御倉町1番78号 ☎024-522-2390
開館時間/午前10時~午後6時
見学料/無料 休館日/毎週火曜日、年末年始

昭和2年の建築で、戦時中は日本銀行福島支店の寄宿舎として使われ、戦後は進駐軍の接収も経験しました。外観は、寄棟の赤瓦。杉板の下見張り。部屋は和室8、洋間3、計11あり、使われている木材は全て建築当時のものです。例えば、二間続きの和室の鴨居や長押、柱は青森ヒバです。茶室は、杉の一枚板を使った鏡天井。横組引き分け猫間障子を開けて眺める庭も趣があります。阿武隈川と弁天山を京都の鴨川と東山に見立てたという雅な風情にしばし酔いしれてはいかがでしょう。



二間続きの和室から望む日本庭園が原風景を感じさせる



目の太い畳「龍餐表」に「紋縁」を付け座敷に風格を与えている



貴賓を迎える式台玄関



式台玄関の柱に施された「根継ぎ」に注目。「四方鎌」という見事な仕事を見ることが出来ます

15代目が庄屋屋敷として江戸中期に建築したと考えられています。長屋門(正門)の手前にめぐらせた堀は、大正時代の築造で木の根一本も通さない「亀甲石積」です。旧佐久間邸の特徴は、玄関で、家人用の玄関のほかに、貴賓を迎える「式台玄関」があります。また、囲炉裏の間と座敷と床の高さも異なり、家族間でも優位があったことを物語っています。三間続きの和室、黒柿の障子戸、大黒柱、帯戸、土間など、建物内部は懐かしさと温もりにあふれ郷愁を誘います。

きゅう さく まてい 旧佐久間邸



福島市佐倉下字加藤7-6 ☎024-546-3948
開館時間/午前9時~午後5時
見学料/無料
休館日/無休(施設点検などのため臨時休館の場合あり)

信夫の里でも最も古い民家が伝える歴史

役者と観客の距離が近い芝居小屋

国指定重要文化財
福島市民家園 旧広瀬座



福島市上名倉字大石前地内 ☎024-593-5249
開園時間/午前9時~午後4時30分
入園料/無料
休園日/毎週火曜日、年末年始
(火曜日が祝祭日の場合はその翌平日が休園日)

国指定重要文化財の芝居小屋は、全国に6棟しかない貴重な建造物です。明治20年(推定)に梁川村(現在の伊達市)で有志によって建てられ、平成6年に移築・復原されました。舞台中央は、回り舞台で床下に奈落があり花道、ぶどう棚、ちよほ席など当時の芝居小屋として必要なものを備えています。回り舞台は、手押し式で大人4人くらいで軽やかに回ります。舞台の裏手にある楽屋の板壁には、当時の役者たちのサインや落書きが多数残っています。ほかに市民家園には、年月をしのばせる建物が数多く移築してあります。



旧広瀬座では毎年、芝居小屋としての公演事業を行っています



手押しで動く回り舞台

*1 式台玄関…長台とは玄関先に設けた板敷きの部分。武家屋敷を訪れた客人が地面に下りることなく籠に乗り入れできる
*2 花道…舞台の下手から観客席の前を通り鳥屋に通じる通路 *3 ぶどう棚…竹で編んだ格子状の天井。桜吹雪や紙吹雪を散らすことができる。
*4 ちよほ席…義太夫語りの居るところ